

在鸣门 第 81 期

今年夏天的旅行 今年夏の旅

—愛媛县松山市—

—愛媛県松山市—

早上 10 点 50 分，手握着“青春 18”车票，开始了 2 个人的夏日之旅。目的地，“伊予之国”爱媛县的松山市。由于“青春 18”不能坐特急，所以列车旅途显得特别漫长，但庆幸的是我和斯娜都喜欢坐列车，并且对于沿途的换乘乐此不疲，加上日本的列车干净又人少，聊着聊着，夕阳西下时，松山也到了。

午前 10 時 50 分、青春 18 切符を手に握りながら、二人の旅が始まりました。目的地は「伊予の国」といわれる愛媛県の松山市です。特急に乗れないため、特に長い旅だと感じました。幸いなのは、友人のスナさんと私は電車を乗ることが大好きなので、乗り換えも楽しむことができました。日本の電車は乗客が少なく、きれいです。二人は話しながら、夕焼けが空を真っ赤に染めたとき、松山に到着しました。

一出松山站的站口就看到了被称为现代日本俳句之父正冈子规的俳句碑。子规是日本现代俳句的创始人，大三时的日本文学课上曾经读过他的绝命三句，当时大家都唏嘘不已，没想到今天竟然有幸来到了他的故乡，还真是缘分。走在松山市的道路上，这样的俳句碑随处可见，上边也写着第几番、第几番的号码，俳句碑的旁边往往还会有一个小小的投稿箱，有兴趣的人都可以自己和上一句 5, 7, 5 韵的世界上最短小的诗，投进诗箱过一把“现代俳人”的瘾。

松山駅に着いたときに、正岡子規の句碑が目に入ってきました。正岡子規は日本現代俳句の創始者として、「現代日本俳句の父」と言われています。大学三年の日本文学の授業で子規の俳句を勉強したのですが、難しくて分かりませんでした。それがまさか今は子規の故郷にいるとは、縁が深いと思いました。松山市の道路を歩くと、そのような句碑はどこにでもあり、句碑の上には「第何番」のような文字が書かれています。隣には小さなポストが設置されており、俳句に興味を持つ方は自分で書いた「五七五」の世界一番短い詩——俳句を中

に投稿することができます。誰でも「現代俳人」になれるような感じがしました。

俳句之都是松山给我的第一个印象，这种浪漫气息还得到了在街道上叮叮当当跑来跑去的旧式电车和充满复古风味的街边建筑的佐助，让人走在其中一时间不只今夕何年。

「俳句の都」これは私の松山の印象です。こんなロマンチックな雰囲気町中でゴトンゴトンと走っている古い電車と古風な町並みに合わせて、一瞬、時間が止まったように感じました。

从酒店出发走不久可以看到松山山城公园了。早就对日本的“城”文化感兴趣，德岛城不在，高松城不遇，松山城我们是无论如何也是不愿错过的一站。日本的城，就是各地大名们的住所，这些城各有特色却也有很多相同之处。首先，所有的城必然是建在山上。其次，城的主要格局都是以三之丸，二之丸，本丸的格局规划，居住地往往在三之丸，二之丸，本丸的核心建筑天守阁却不是用来居住的而是城主的堡垒。

ホテルからちょっと歩いて、松山城・城山公園が目に入ってきました。日本の「お城」に興味を持っていて、松山城をぜひ見たいと思っていました。お城は昔の大名達の住居で、地方によって各地の特徴を持っていますが、いくつかの共通点もあります。まず、



すべてのお城は山の上に位置しています。そして、三の丸、二の丸と本丸は普通の構造で、住む所は三の丸と二の丸、本丸の核心部分の天守は住む場所ではなくて砦です。天守とは戦闘のときにこそ、その存在価値があるのです。防衛の要として一大事のときにだけ籠城します。

松山城很大，是四国地区最大的古城。遗憾的是从外围的护城河到城墙基本上已经不再是原来的样子车水马龙的现代都市一点点的侵蚀了它们，现存的松山城三之丸的建筑已不在。我们从黑门登山进入二之丸才看到些白墙黑顶的标准日本战国时期的古风建筑。买了门票进入二之丸庭院，外侧高墙上镶嵌着大小不一棕黑色的木窗，这些木窗决不同于中式庭院的雕梁画栋，从冲投射出来的也决不会是萧音琴风。大一点的窗口可以上下开合用来投掷落石，小一点的方形口称作矢狭間，最小的口叫做狭间，前者用来射箭，后者用来放枪。这一套的设备用来保护生活在丸内的城主的悠闲。城墙内低矮的院墙宛如天坛中的圆丘外墙，失去

了其本来具备的功能，而平添了更多的文化和艺术的功用。古朴的院门，院中清静的茶室和四季应时而开的花卉，让人错愕与一墙之隔的天壤之别。

松山城はとても広くて、四国最大のお城です。ですが、堀や城壁が昔のまま現存しておらず、少しずつ改修し、今残っている松山城は三の丸がありません。私たちが黒門から徒歩で移動していると、二の丸まで白壁と黒瓦の古い建物が目の前に現れました。チケットを買って、中に入りました。外壁にはたくさん大きさが違う木製の窓があり、中国の木製窓と違って、飾りものではなくて、戦争時、防備の際に、窓から石を投げたり、矢を射ったり、鉄砲を撃ったりします。このような城壁で城主のゆったりとした生活を守っていたのです。城内の塀は低くて、もとの機能を失い、芸術的な効用を添えて、古風で優雅な茶室、そして静かな庭に時期によって満開になる花、城外の争いと比べると、まるで別天地です。

最后，我们进入松山城本丸的天守阁。每个大名占领了一个地方必然会为自己建立的城堡。那山上高耸的城堡，一方面让城下町的老百姓们，每一次的仰望都多少感受到了敬畏的情怀。另一方面也为那些虎视眈眈给予此地的群雄大名增加了无比的战术难题。爬到天守阁的顶端下望，一座城宛如一个大大的蜗牛，螺旋状的攀升直至顶端。从天守阁的顶格的小窗向外望去，云绕青山，一望无际，一阵风吹过，太阳扒开那云层的一角，投下光芒缕缕，照在百年的白墙黑顶的檐上。

最後に、本丸の天守に入りました。大名が占領したところにお城を建てるのは必然なことになっています。山の上に天に向かってそびえているお城は、山裾にいる庶民たちに見上げられ、畏敬されています。しかも、戦略上も有利な地形を使い、敵を押し払うことができます。天守のてっぺんから下を見下ろすと、お城全体はカタツムリみたいで、螺旋状にてっぺんまで上昇しています。窓から遠く見てみると、青い山が白い雲に囲まれていて、広くて果てしない様子、そしてひとしきり風が吹き、雲の隙間から太陽の光が漏れ、黒い瓦を照らしていました。

—道后温泉— 一道後温泉—

离开松山城，坐上街道上奔驰的电车我们来到道后温泉。到日本没泡过温泉的人就如



同到北京没吃过烤鸭一样。道后温泉是日本最古老的温泉。与日本一般的温泉不同，大部分的日本人都是以朝圣的心态来到这里，不论早晚，一定要在那个有名的道后温泉本铺，花上 400 日元泡个半小时，然后带着满足的身心吃上一顿正宗的日本料理，一时间城市的纷扰都被抛在了脑后，用传统生活来洗涤现代的纷繁，成为日本永恒时尚。

松山城を後にし、町中を走っている電車に乗り、道後温泉につきました。日本で温泉へ行ったことがないのは北京で北京ダックを食べたことがないみたい不思議です。道後温泉は日本三古湯の一つといわれていて、普通の温泉と違って、多数の人々は聖地巡礼のような気持ちでここに来ます。多くの方は、朝晩を問わず、400 円ぐらいを支払い、有名な道後本館で半時間ぐらい入湯するはず。大満足した後、日本料理を食べて、疲れを取り除いてすべての悩みを忘れます。このように、伝統文化である温泉で現代社会のストレスを洗い落すのは、日本ならではの文化だと思いました。

很多朋友问过我，日本人为什么那么喜欢泡澡这个问题。开始我总是用“洁癖”两个字作简单的回答。在日本生活了半年，我也开始“洁癖”了起来。小时候不洗头被妈妈追着从大屋跑到小屋的童年的我看到我现在的行为，一定认为我必定是“分裂”了人格。其实日本人的“風呂文化”由来已久，一方面人家有哪个客观条件“洗得起，泡得起”。不同于我们的干旱的西部，喝水都成问题，那敢用来这么“造”。另一方面，个人认为喜爱大自然的日本，有一种天生的“水に流す”的文化情结。一切身体的污浊都可以用流水洗净，一切心灵的肮脏都可以在温泉的蒸灼中从肉体中分离出来化为空气，获得身心的释放。

なぜ日本人はそんなにお風呂が好きですか、とたくさんの中国の友達から聞かれます。最初は冗談半分で「潔癖かも」とごまかして答えました。でも、日本で半年ぐらい生活して、自分も知らないうちに潔癖になってきました。小さい頃は髪を洗うのが大嫌いで、部屋から部屋まで母に追いかけられた私が今になっ



なってこんなにお風呂が好きになるのは「別人になった」としか考えられないです。実は日本のお風呂文化は歴史が深いです。一つは日本の地理的条件で、火山や地震が多いので温泉も多く、入湯料も安くて、誰でも楽しむことができます。中国では、水は少なく、時々飲み水も

なくなる西部地方と比べると日本にいる人々は幸せです。もう一つは、自然が大好きな日本人は「水に流す」という感情があると思いました。体や心の汚れも温かい温泉水で洗い落して、心身とも解放されると、気持ちが楽になります。

两人按照地图摸索，不费力的就找到了事先在网上预定的酒店。和昨天商务旅馆形成了鲜明的对比，这里的旅馆充满了度假的气息。和式的房间干净舒适，桌上放着和菓子和冰箱里啤酒是免费提供的，舒舒服服泡完澡后两个人一起小 high 一下正好。0(∩_∩)o ~

收拾停当，换上浴衣，去泡温泉喽。

私とスナさんの二人は地図に従って歩いていると、すぐにインターネットで予約したホテルを見つけられました。前日のビジネスホテルと比べてリゾートの雰囲気が出て、きれいな和室も気持ちいいです。テーブルに置かれたお菓子や冷蔵庫の中のビールもサービスで、お風呂の後にワイワイ最高！0(∩_∩)o ~
ちょっと片付けて、浴衣に着替え、温泉へ行こう！